

坂戸キリスト教会 郷家一二三牧師

素敵なステンドグラスを共に見上げています。古来、礼拝堂は太陽が昇る東に向かって建てられました。差し込んでくる朝陽の中で、死から復活されたイエス・キリストを仰ぎながら礼拝をしました。同じ方向に向かうオリエンテーションの語源がここにあります。今朝もここに集うわたしたちに復活の光りが注がれています。神の愛が注がれています。神の愛に目が開かれますように。

主イエス・キリストを信じることによって「神との平和」を得ていると語り出します。「平和」からは豊かなものが生み出されます。たとえ苦難であっても、苦難は忍耐を生み、忍耐は練られた品性を生み、その品性は希望を生み、希望は失望に終わることはありません。なぜでしょうか。神の愛が注がれているからです。愛が平和の土台として支え、愛が状況を造りかえるからです。この手紙を書いた伝道者のパウロは、イエスをキリストと認めず、自分が正しいと確信していました。でも聖霊なる神によって、十字架にこそ真実な神の愛があると分かったのです。十字架の犠牲により罪がゆるされ、神と和解できると分かったのです。

「神との平和」は「神との和解」と言い換えられます。神は罪から救い出して和解してくださるだけでなく、復活の命を与えてくださいます。神の子とされるのですから、神の子、主イエスと同じ姿に変えられるのです。罪の裁きとしての死はもうありません。死は神のもとに眠ることです。永眠ではありません。主イエス・キリストが再び来られる時に、呼びさまされ、栄光の姿にわたしたちを復活させてくださるのです。

新聖歌188番の「救い主は待っておられる」を賛美しましょう。神との平和を与えてくださり、神との和解のために十字架に掛かってくださった主イエス・キリストは、あなたの心の戸をノックしておられます。無理矢理に入られるのではなく、あなたの方からひと足近づいて、手を差し出し、心にお迎えすることを待っておられます。復活の光が射し込み、心の闇は消え去り、愛が湧き出る日々が始まります。